

# 馬と共に暮らしをつくる

軽井沢風越学園「暮らしづくりプロジェクト」

西村 悠呂



# 馬と共に暮らしをつくる

---

西村悠呂  
軽井沢風越学園「暮らしづくりプロジェクト」

## はじめに

馬と出会って、8年が経った。8年間、馬、人、仕組み、たくさんのことと出会ってきた。僕自身、馬のどこに胸を打たれたのか、馬に対する様々な思考と出会い、馬が共にする環境に出会ってきたのか。なぜ馬と暮らすという願望が生まれてきたのか。僕が軽井沢風越学園で馬と暮らすとしている中で、僕は感じた。馬と暮らすということは、一人では成し得ないと。現在、僕らの周りの馬というコミュニティが小さいことがある。これを機に僕の経験、思考、出会いを整理し、馬と暮らすを知る材料を作り、コミュニティを広げたいと思う。どう仲間を増やすか。学びを増やすか。人の繋がりを増やすか。地域との繋がりを増やすか。この馬探を一つのきっかけにしたいと思う。これを読み、馬に、馬との暮らしに、軽井沢風越学園での学びや暮らしづくりから地域の文化、様々なこと、出会いに興味をもち、読者が共感し、コミュニティの一部となってくれることを願いたい。では始めよう。

僕の名前は西村悠呂。僕は福岡、山形などいろいろなところで過ごしてきた。  
今は長野県軽井沢町に住んでいる。中学2年だ。今興味があるのは、馬、木工、刃物研ぎだ。



左、西村悠呂

2015-2020

## 5歳、馬との初めての出会い

5歳の誕生日、僕のひと声から始まった。「馬に乗りたい!」。山形県金山町にある牧場「セラピーファームめごたま」に出会った。セラピーファームめごたまは、馬の命を守る、馬との暮らしを中心とした牧場だった。馬の命を守るのには一年の四季を通して仕事がある。毎日の馬の世話に加え、冬は、大雪のため柵を全て外し、春に付け直す。道具小屋をつくったり、馬場をならしたり、仕事が毎日たくさんあった。僕はめごたまが大好きになった。5年通い続けためごたまは僕にとってかけがえのない場所になっていた。4ヶ月間ファームステイしたこともあった。「馬と過ごしていると楽しい!」といつしか思い始め、馬が大好きになっていった。馬は次第に僕と切っても切り離せない存在になった。



オーロラと乗馬中



餌をつくる僕



初めての出会い



妹もマトユウレロと散歩中



よく一緒に過ごしていたキャロットとお昼寝姿

## 軽井沢風越学園について

小学5年生に軽井沢に引越し、今は軽井沢の風越学園という学校に通っている。風越学園はちよっと変わった学校だ。3歳から15歳までが共に過ごし、関わる。年齢、後輩、先輩関係なく関わり合っている。風越学園の先生、子どもは「もい」「ばわー」「ふう」など自分が呼ばれた名前前で呼び合う。これは風越ですごく大切にしている文化だ。風越学園の先生は先生を通り越して友達のような存在になっている。風越学園には、「マイプロジェクト」という時間が水曜日丸一日ある。マイプロジェクトとは、自分の興味関心、「やってみたい」を原動力として活動できる時間のことだ。僕は風越学園で過ごしていると思う。風越学園の僕はとにかく何かをつくっている。学校づくり、場づくり、ものづくり。風越学園は一人一人が「つくる」感覚を持っている。僕にとって「つくる」感覚を投げ合えるのが風越の最大の魅力だと思う。僕にとって風越学園は、日々、常に自然や環境、動植物とふれあい、考え、行動に移せる場所になっている。風越学園は僕にとって凄く大切な場所、大切な出会いになっている。夏休みは毎日学校に行きたいと思っていたほどに学校で過ごしている僕が大好きだ。

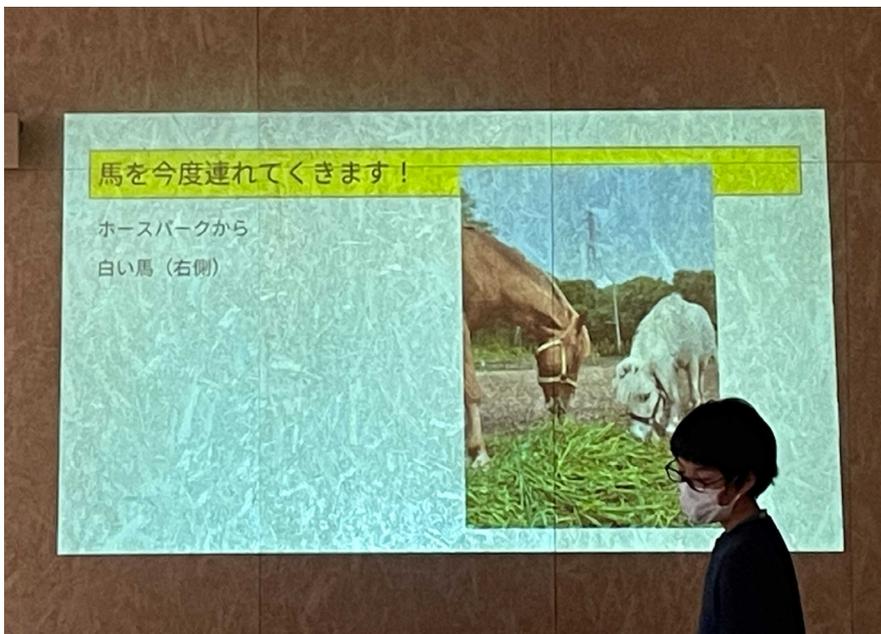


風越学園の畑と校舎

## 5年生、風越学園での挑戦

小学5年生、風越学園に入学してすぐの頃。めぐたまの馬たちと離れてしまった僕は寂しかったのだろうか、僕には馬が必要だと無性に感じた。「風越で馬を飼いたい!」。「風越で馬を飼いたい!」という思いをスタッフも応援してくれ、頑張ろうと思った。が、この頃まだ「馬との暮らしたい」という思いはなく、風越にとって、みんなにとって、馬を飼う価値や意味を見つけ出せなかった。馬を飼うあてもなく、お金などの実現のハードルを感じ挫折してしまった。

この頃の僕は、風越学園や暮らしの豊かさよりも、僕の幸せ、僕を中心に考え、動いていたような気がする。



馬を連れてきたいとプレゼンする僕 (5年生)

## 6年生、大分県「ゆれる」の1ヶ月

6年生の夏休み、僕は1ヶ月大分県竹田市の「ゆれる」という牧場にファームステイをした。「ゆれる」は馬の命守ることを中心において子どもが寝泊まりしながら、共に「暮らしをつくる」牧場だった。「ゆれる」での一日はこんな感じだ。朝5時に起き、馬を放牧地から連れてきて、馬装し、乗る。乗ってから、朝飼い、掃除をする。昼は、いろいろなことをする。馬具の手入れ、漫画を読む、洗濯、イオンモールに行く、買い出しに行く、映画をみる、川にいったり飛び込む、田んぼの草取りをする。「ゆれる」はまさに生活の中に馬がいた。「ゆれる」では、夜になると、子供3人で約20人分の夜ご飯をつくる。夜ご飯が毎日豪華でもとても美味しい。僕はこの時間が大好きだった。そして、温泉にいき、寝る。この暮らしが毎日続くのだ。僕にとってすごく新鮮で幸せな体験だった。2年経った今でも記憶が色濃く残っている。ここでは、暮らしという言葉を使っているが、この頃はまだ馬と暮らすことをはっきりとイメージできていなかった。しかし馬と共に生きているという実感は確かであった。



ゆれるの朝、放牧地へ



ゆれるの夜ごはん

# 「命の繋がりプロジェクト」

風越学園のプロジェクト

僕の馬への視点が大きく広がったプロジェクトがある。それは風越学園スタッフ発の「命の繋がりプロジェクト」だった。「命の繋がりプロジェクト」とは、開校当初の風越学園では、人工的につくられた校庭と元々あった森との繋がりを感じられなくなっていた。その繋がりをつくり、もっとグラウンドと庭が森のように生物多様になり、人間も生物も過ごしやすい場所を作りたい。このような願いから生まれたプロジェクトだった。



風越学園の外の環境の航空写真



川づくり中

この「命の繋がりプロジェクト」で、僕はパーマカルチャーデザイナーの四井真治さんと出会った。四井さんは、いのちの仕組みの暮らし研究家、20年以上の日本のパーマカルチャーと持続可能な暮らしを研究。人の生活が環境を壊すのではなく、豊かにできることに気づく。著書「地球再生型生活記」。四井さんは言う。「産業革命以降、絶滅危惧種の大半が水辺の生き物なんだ。水辺が増えるとグッと生き物が多様になると思う」風越に川という水辺をつくり、生き物を多様にしようとした。外での料理の場をつくりたいとアースオープンをと土をとってきてレンガから作った。今はピザや焼き芋で大活躍だ。植物の多様さもつくりたいという思いから、ハーブスパイラルガーデンと畑をつくった。環境が持続可能になり、豊かになっていくためにはと日々考え四井さんにサポートしてもらいながらつくってきた。この命の繋がりプロジェクトを通して、僕らの日常の生活が循環し、豊かになることを学んだ。そしてより良くするためには、命が必要なんだと言うことも学んだ。命の繋がりプロジェクトを通して「暮らしをつくる」という思いがくつきりと浮かぶようになっていき、次第に表現するようになっていった。



川とハーブスパイラルガーデン完成時集合写真



アースオープン完成時の写真



アースオープンでのピザ

2023.11.25

## 「働く馬フェスタ」

僕に「馬との暮らし」を会わせてくれたイベント

去年の11月25日、僕は働く馬フェスタに行った。到着すると二頭のばんばが田んぼを耕している。そこで僕は、岩間さんと出会った。岩間さんは、馬耕、馬搬の第一人者「一般社団法人馬搬振興会」代表理事、「三馬力社」代表をし、2022年には英国馬搬技術コンテスト・シングル部門で優勝している。すごい人だ。岩間さんに挨拶をすると「やってみなよ！」と  
言われ、馬耕を体験させてもらった。鋤を持ち、手綱を握り、耕す。馬とやり取りを重ねながら、鋤の入り具合、角度を操作する。マルチタスクで新鮮な体験。特にまっすぐと耕すのが難しかった。本当に初めての体験だった。僕はときめいた。僕の考えていた、暮らし、豊かさ、繋がりにシンデレラフィットしたからだ。これしかないと思った。乗馬しか触れ合ってこなかった僕にとって新たな馬の可能性を広げ、考えていた暮らしにつながるきっかけをつくってくれた。



初馬耕、ばんばとの2ショット

## 雨宮さんと楓ちゃんとの出会い

馬と暮らすを実践できた2日間

働く馬フェスタの繋がりで、白馬の雨宮さんと楓ちゃんに出会った。楓ちゃんは道産子の5歳だ。僕は雨宮さんと楓ちゃんに風越学園に来てもらい、風越の畑を馬耕をして欲しいと頼んだ。雨宮さんは「やりましょう」と言ってくれた。学校に馬がやってくる日が来るとは思ってもみなかった。

12月18日だった。雨宮さんと楓ちゃんには春に向けて、馬耕し畑に空気を送り込む作業。この日、馬が風越学園に初めての日になった。馬運車の扉が開く。みんな大注目。みんなの力で鋤を引き、馬力を体験する。みんな馬の力強さを体感、感動し、楓ちゃんの作業に見惚れる。みんな鋤を手に取り、馬との作業を体験する。「この力加減がねー」「この角度が完璧だよねー」「こうやってやるんだよー」みんながそれぞれの感覚を掴み、教え合う。いい風景だ。僕はその風景に感動し、二回目を企画することにした。



楓ちゃんと馬耕中



楓ちゃんを見つめる幼稚園児



左から、雨宮さん、楓ちゃん



楓ちゃんと馬搬中



「カヤック」中



楓ちゃんとふれあいタイム

2回目、雨宮さんと楓ちゃんと馬搬をすることにした。2月5日だった。森の中に切つて積んである丸太を引つ張り出す作業。みんなで冬の間凍っている丸太を崩す。中学生はキングダムにハマっているらしく、なかなか崩れない丸太を「合従軍だー」とか言いながら楽しそうに崩す。崩した丸太を楓ちゃんの後ろにロープでくくりつけ、引つ張る。楓ちゃんはどんどん進んでいく。みんなの口から「速すぎて追いつけないよー」「待ってー」僕よりでかい丸太を引つ張る楓ちゃんが僕より速い。楓ちゃんは丸太の重さを感じさせない。みんな思った「速い」。

そして午後、ある子が「茅束を引つ張ってくれませんか？」と頼む。「引つ張ってみるか」と雨宮さん。楓ちゃんが茅3束をどっこいにくくり引つ張る。みんながいう「これ乗れるんじゃない？」自然と茅でそりをするようになる。乗ってみると風を切り、すごく気持ちがいい。茅そりにみんなで名前をつけた。それは「カヤック」。この日自然と新たな乗り物が生まれた。

この2日間、ほんとに馬と暮らしをつくっている感覚がした。僕がイメージしていた風景ってこれなんだとイメージを2日間だけが実現できた。この風景や出来事が毎日続くと最高だなと改めて実感した。

## 「暮らしづくりプロジェクト」

風越学園のマイプロジェクト

「命の繋がりプロジェクト」で「暮らし」「豊かさ」「繋がり」などと触れ合う中で、「暮らし」「豊かさ」「繋がり」などに馬が仲間になることはできないかと思った。そこで馬に興味がある仲間を集めたいと思った。が、馬だけでは、暮らしの中で繋がり生まれず、多様な環境にならない。みんなが外の環境に参画できるようなプロジェクトを作りたい。色々と考え、こんなプロジェクトが出来上がった。一人一人が思いを持ったプロジェクトを持ち、一人一人が一人一人のプロジェクトを参加し応援しあう。そしてたくさんの方のプロジェクトたちが風越学園に蓄積されていくことで、蓄積されるプロセスの中に願いや関係性が構築されていく。次第に日々の暮らしの中に溶け込んでいく。そして、一人の活動ではなく、風越学園、軽井沢町を巻き込んだ活動に発展していく。

名前は「暮らしづくりプロジェクト」だ。今は中学生8人で活動している。



外での料理の幅を広げるためにつくった、日干しレンガのかまど、アースオーブン、移動式シンク、薪棚



ゆっくりおしゃべりできる時間をつくりたいという思いから、自作のかまどやピザ釜で、ピザ・パエリア・ドリア・焼きおにぎり・チャーハンなどをつくった



自分たちで育てた野菜で料理をしたという思いから「畑」をつくった。トマト・バジル・さつまいもを育てている



馬と共に暮らしたいという思いから、馬をまず知ろうとハーモニーセンターに体験しに行った



学園の生ゴミを栄養ある土にし、畑に生かしたいという思いから「みみずコンポスト」をつくった

暮らしづくりプロジェクトのプロジェクトたち

## 馬と共に暮らしをつくりたい

暮らしづくりプロジェクトのみんなと  
馬を知るため蓼科ハーモニーセンターへの見学

僕が乗馬でハーモニーセンターから、「ミニチュアポニーのクリスチナなら風越学園に貸してもいいよ」と声をいただいた。すごく貴重なことだ。今このクリスチナの件を暮らしづくりプロジェクトで進めている。進めている中で僕は、暮らしづくりプロジェクトメンバーにクリスチナに会ってもらい、どんな馬なのか、どんな世話が必要なのかを体験してほしいと思った。ハーモニーセンターさんに電話し日程を調整し、行けることになった。当日ハイエースの中メンバー8人でギュウギュウになりながらも出発し到着した。

挨拶をして、馬房掃除をする。クリスチナをブラシがけし、鉄爪をする。この馬の手入れもみんなにとって初めての体験。そして毎日することになる体験。そして、引き馬をする。みんなペアの馬とコミュニケーションを取りながら進む。この時間もただ馬を引いているのではなく、みんなの馬と会話する集中力が伝わってくる。僕は、メンバーみんなが馬房掃除し手入れし引き馬しそれぞれを集中し大事にしてくれることが嬉しかった。



話を真剣に聞くみんな



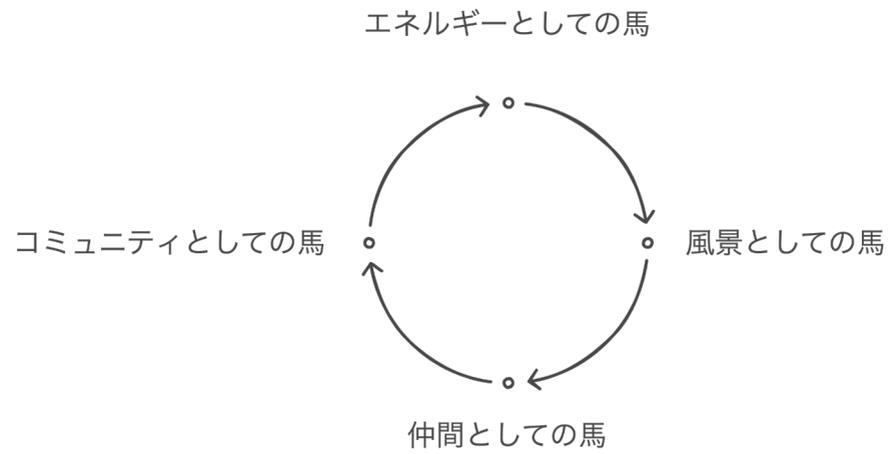
鉄爪をするメンバー



森の中を引馬中

クリスチナは馬と共に暮らすことの可能性としてエネルギーを生み出すわけではないが、幼稚園から中学校まである風越学園で、小さいクリスチナは幼稚園の子も親しみやすいのではないか。外で活動する幼稚園がクリスチナを仲間として受け入れられることが重要だろう。クリスチナは風景、仲間と一緒に暮らすことができると思っている。そして、馬がいる学校の第一歩としてクリスチナがいる学校をつくりたいと願い、動いている。

## 馬と共に暮らしをつくる



暮らしづくりプロジェクトメンバー

左から、こた、ゆる、さく、たいせい、りと、じゅんのすけ、ちひろ、むさし

## 僕の見つけた馬の可能性

僕の見つけた馬の可能性は大きく4つあると思う

### 〔エネルギーとしての可能性〕

世界は化石燃料というエネルギーに溢れている。産業革命以前、馬は大切なエネルギーだった。馬車で移動し、荷物を運搬し、馬耕で食べるための食物を育て、馬搬で家に必要な木材を引き出してくる。生活に欠かせないエネルギーだった。

### 〔風景としての可能性〕

馬がいる風景を想像して欲しい。馬がポツンと草原の中に行んでいる。馬が馬車を引く。馬が馬耕をする。馬が馬搬する。馬と歩く。馬を撫でる。馬と一緒にいる。森の中に馬がいる。馬がいるとどんな出来事も景色も美しい風景にしてくれる。

### 〔仲間としての可能性〕

馬糞から堆肥を作り、畑を肥やす。馬がいるだけで、森、畑、環境が豊かになる。馬を世話する。その代わりに馬は豊かさをくれる。命という責任もくれる。馬がいることで日々の暮らしの可能性の幅が広がる。

### 〔コミュニティとしての可能性〕

馬は一つの目印になる。悲しい、嬉しい、寂しいなど人間ではなく、馬と語ることに大きな意味があると思う。そして、馬を目印に人が集まり、コミュニティができていく。みんなの中に、馬がいるという状態が作れるのではないか。

## おわりに

馬という生き物に出会い、馬という視点でたくさんの人、場所に出会い、馬と共に暮らしたいと思うようになり、今実現しそうである。

僕は、馬と暮らすとは？なぜそんなことを？どのような思いで？どんな風景をみたの？などこれまでにあった問いを整理した。もしかしたらこれを始まりとする新たな問いが今生まれているかもしれない。まだまだ始まったばかりだ。僕にとってこれを読み、馬と暮らすことに興味や関心を寄せてくれることが一番幸せだ。馬という一つの生物を好きになったことがこんなにも僕の暮らしを変化させるとは、出会いを増やすとは。この作品を通して、僕が思う「馬と共に暮らす」がどのようなことなのかちょっとでもわかり「馬と共に暮らす」コミュニティを広げたいと思う。

馬に出会わせてくれたお父さん、お母さん、馬が好きになるきっかけをくれた巨隊長とずみさん、馬の奥深さを教えてくれたよりよしたさん、雨宮さん楓ちゃん、僕の思いに乗っかってくれた暮らしづくりプロジェクトのみんな、暮らしに出会わせてくれた「命の繋がりプロジェクト」、四井さん、風越学園、協力するよと言ってくれた人たち、そしてたくさんの馬たちに感謝したい。そしてこれからもよろしく。



## いのちのつながりプロジェクト

### かぜのーと記事

いのちのつながりづくりプロジェクト レポート 1ーそれは芝生を...  
 2022年度がはじまると同時に、私たちは少しずつ芝生を蒔いて畑にし、幼児から9年生までが共に、または学年ごとに豆類を中心に作物を育ててきた。6月  
 ● <https://kazakoshi.ed.jp/kazenote/dandan/26504/>



### Google Photo | 写真

#### 2022年度

2022/07 四井さんワークショップ  
 243 new items added to shared album  
 ● <https://photos.app.goo.gl/xWbz4DYNRXXVCT547>



2022/07 いのちのつながりPJワークショップ  
 199 new items added to shared album  
 ● <https://photos.app.goo.gl/yNbf4BrccKkRbAb8>



2022/09 四井さん 自宅見学  
 91 new items added to shared album  
 ● <https://photos.app.goo.gl/XUA6VJdPnMYL3mGz7>



2022/9/4～5 いのちのつながりプロジェクト  
 186 new items added to shared album  
 ● <https://photos.app.goo.gl/bidUr9E9Rk1g2ZjP6>



2022/11/13 いのちのつながりワークショップ  
 191 new items added to shared album  
 ● <https://photos.app.goo.gl/qziHtpYoxytqcmQ7>



#### 2023年度

2023/04 外環境づくり  
 48 new items added to shared album  
 ● <https://photos.google.com/share/AF1QipMJeQoYrL3s6a5N44eOjUSD1y...>



伐採・製材プロジェクト  
 72 new items added to shared album  
 ● <https://photos.app.goo.gl/diw3Pxmeye3etCvB9>



馬耕プロジェクト  
 190 new items added to shared album  
 ● <https://photos.app.goo.gl/2ugV62ynuVu5PY2D7>



<https://246246.notion.site/0436a8e834194f35931fcee82abd796>

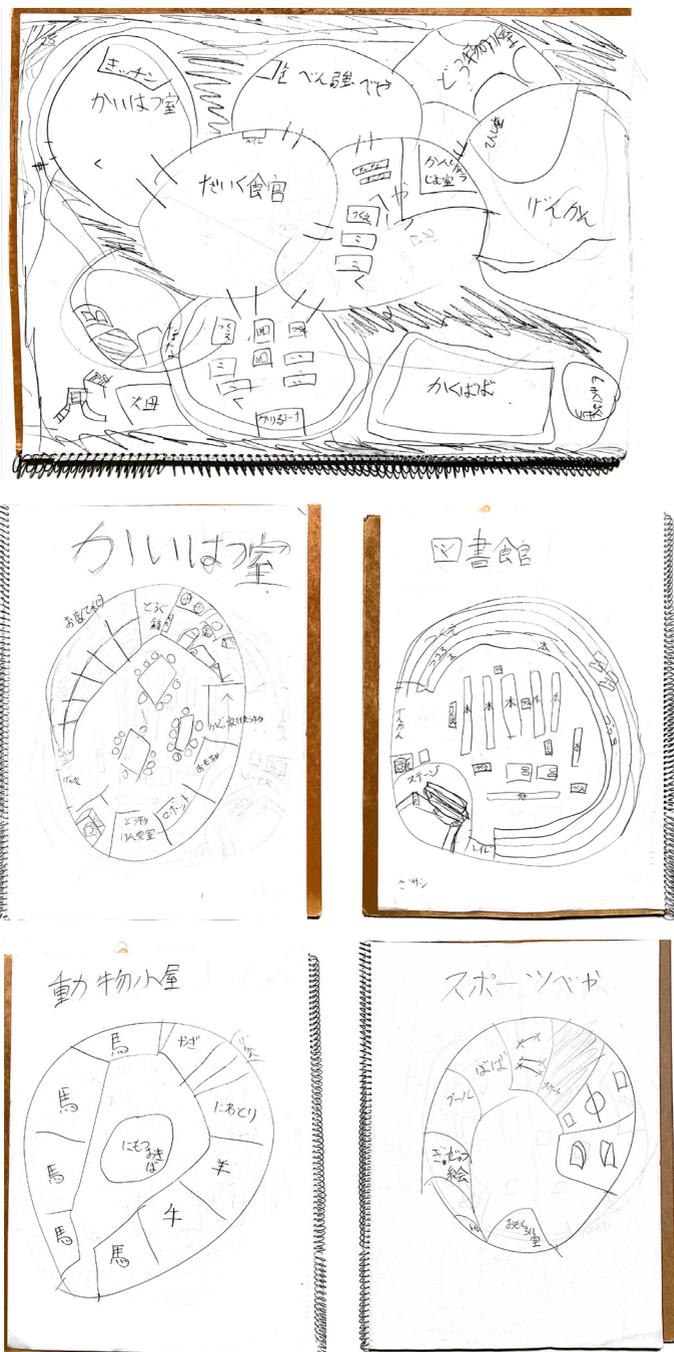
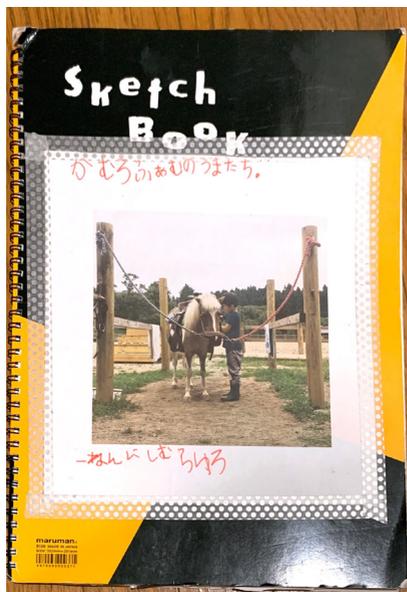
## 補足資料 Appendix

今回の写真や文章だけでは、伝わり切らない部分があると思う。  
 一つ一つの出来事や風景をもっと深く知ってほしいと思いい、これまでの活動でのたくさんの写真や動画などをまとめた。風越学園での活動が主に載っている。

## 補足資料

小学1年生、セラビーファームめぐたまに通い始めた時の小学校の自由研究で描いた作品。  
セラビーファームめぐたまを知ってほしい、馬を知ってほしいそんな思いでつくった。

※カムロファームで小学3年生からセラビーファームめぐたまとし、放課後デイサービスが始まった。



小学4年生の頃、公立の小学校に違和感を感じ、自分の理想の学校を考えた時の設計図。

これを見ると風越学園と雰囲気が似ているような気がする。そして動物小屋や角馬場など馬が中心として描かれている。

---

#### 軽井沢風越学園 暮らしづくりグループ

メンバー：

西村 悠呂(8年) / 渡辺 朔次朗(9年) / 澤田 康太郎(9年) / 瀬間 大晴(9年)  
/ 森 武蔵(9年) / 池田 潤之介(8年) / 関 侗都(8年) / 田中 千尋(8年)  
/ 金谷 俊介(9年) / 金井 颯汰(8年) / 高橋 志門(5年) / 八代 權(9年)

スタッフ：新井 佑香(もい) / 齊土 美和子(わこさん) / 遠藤 綾(あや) /  
西村 隆彦(ニシム) / 勝山 翔太(りりー)

文章監修：甲斐 利恵子(りんちゃん)

---

#### サポートいただいたみなさん、出会った方々

軽井沢風越学園 <https://kazakoshi.ed.jp>

公益財団法人ハーモニセンター(長野県茅野市)のみなさん <https://harmonycenter.or.jp/>

四井 真治さん(ソイルデザイン研究所:パーマカルチャーデザイナー、いのちの仕組みの暮らし研究家)

<https://soildesign.jp/> <https://www.ruralnet.or.jp/ehon/chikyu/>

雨宮 康平さん(馬耕 / 馬搬 協力) <https://www.instagram.com/koheialaska/>

岩間 敬さん(三馬力社 岩手県遠野市)

よりよたさん(他力サムガ)

井上亘さん(セラピーファームめごたま)

セラピーファームめごたま(山形県 金山町) <https://megotama.or.jp/therapyfarm/>

一般社団法人ゆれる(大分県竹田市) [https://www.facebook.com/yureruyureru/?locale=ja\\_JP](https://www.facebook.com/yureruyureru/?locale=ja_JP)

働く馬フェスタ(長野県 佐久市)

他力サムガ / 他力塾(島根県 雲南市)

徳吉 英一郎さん(岩手県遠野市 クイーンズメドウ・カントリーハウス)

\*他にも、たくさんの方々にサポートいただきました。

---

#### 馬と共に暮らしをつくる

西村 悠呂(文・デザイン・表紙絵)

軽井沢風越学園 暮らしづくりプロジェクト

発行日 2024年10月6日



